

行政視察報告書

1. 委員会または会派等 公明党議員団
2. 視察期間 平成29年10月23日 から 平成29年10月25日までの 3日間
3. 視察先 ① 埼玉県 羽生市 ※台風による飛行機欠航等の為中止 ② 埼玉県 戸田市 ③ 東京都 練馬区
4. 視察項目 ② シティセールス戦略について 【戸田競艇企業団の取り組み・戸田市児童センターこどもの国の運営】 ③ 高齢者等ごみ出し支援事業「あしすと」について
5. 参加者 〔委員(議員)〕 大野哲也 三宅智加子 平山伸二 今村智津子 塩塚敏郎
〔同行〕なし
〔随員〕なし
6. 考察 別紙のとおり
以上のとおり、報告いたします。 平成 29年 11月 10 日 報告者 <u>大野 哲也</u> 大牟田市議会議長 殿

6. 考察

② 埼玉県 戸田市

【人口】137,788人【面積】18.19km²【一般会計】約500億円

【視察項目】シティセールス戦略について

【戸田競艇企業団の取り組み・戸田市児童センターこどもの国の運営】

★視察事項★ について

シティセールスとは、「まちの魅力を市内外にアピールし、人や企業に関心を持ってもらうことで、誘致や定着を図り、将来にわたるまちの活力を得ることにつながる活動」のことをいう。戸田市では、人口減少社会においても人口増加が続き、現状では「選ばれるまち」となっている。

しかし、「認知度が低く、都市イメージが希薄なまち」という大きな課題があり、その課題を克服するために、2011年6月「戸田市シティセールス戦略を策定し、まちの魅力を積極的にアピールしてきた。

戦略の策定から5年が経過し、この間、1万人以上の人口増加があるなど、定住人口獲得に向けた取り組みの効果が表れている。また、様々なメディアや機会を通じて戸田市の情報が発信され、戦略において最も力を注いでいた情報発信力の強化が実を結び、認知度は徐々に向上している。一方で、人口移動の激しいまちという状況は改善されておらず、今後も、市民の愛着心の向上や、認知度と都市イメージの向上を目指し、時代の流れに即したシティセールスを推進していく必要があると分析している。

このような状況を踏まえ、これまで以上にまちの魅力を発信していくため昨年4月に「戸田市シティセールス戦略改訂版を策定された。

今年7月にシティプロモーション戦略を策定した本市にとっても大変参考になる取り組みであると考え、今回視察先として選定した。

◎戸田市のシティセールスをめぐる課題と対応

戸田市の現在の都市イメージを基に、シティセールスをめぐる課題と対応を整理すると以下の3点に集約できる。

- (1) 明確な都市イメージがない ⇒ 目指す都市イメージを構築する
- (2) 情報発信の不足 ⇒ 情報発信力を強化する
- (3) 個別資源の活用 ⇒ 資源や強みの活用と創出を行う

◎シティセールス展開の基本方針

基本的な考え方

都市のブランドには、都市が持つ統一的なイメージと、地産や観光等の個別ブランドがある。シティセールスを開始するにあたり、この2つの関係を整理するとともに、課題と対応を踏まえ、戸田市のシティセールス展開の基本的な考え方を次の

ように設定された。

まず、魅力的な「戸田市のイメージ」を創出し、市内外に積極的に発信することにより、戸田市への関心を高める。このシティセールス活動を継続することで、次第に「戸田市らしさ＝都市ブランド」が確立される。この「都市ブランド＝戸田市ブランド」が広く認知されることで、やがて戸田市の持つ個別ブランドに波及し、個別ブランドとの相乗効果により都市イメージがさらに高まるという、良い循環を創りだすことができるということである。

また、活動を通じ戸田市に対する市民の誇りや愛着心が醸成されることにより、市民によるシティセールス活動へとつながっていくことが期待できる。

シティセールスの最終的な目的は、戸田市に人や企業を呼び込むとともに、市内への引き留めを図ることで、将来にわたり戸田市の活力を維持し、持続的、安定的な都市経営による住民福祉の向上を目指すことにある。

◎推進戦略

ターゲット

シティセールスのターゲットについては、対象地域(ターゲットエリア)と対象者を明確にすることで、活動を集中し、高い成果を上げることができる。

ターゲットの設定にあたっては、転出入者数及び転出入者への意識調査を行い、本戦略策定にあたっての参考としている。

◎2つの戦略

シティセールスの2つの推進目標、「認知度と都市イメージの向上」、「市民の誇り、愛着心の向上」を達成するためには、戸田市の魅力を向上させることと併せ、効果的な情報発信により認知度を高め、戸田市を理解してもらうことが重要だ。

そこで、シティセールスの推進に向け「様々なメディア、機会を活用した情報発信」と、「発見！戸田市の魅力」の2つの戦略を設定し取り組む。

それぞれについて、具体的な取り組み＝アクションプランを設けて進める。

(1) 戦略1. 様々なメディア、機会を活用した情報発信

戸田市の持つ様々な魅力や資源の認知度を高めるため、市内外の方への戸田市の情報への接触度を増やすことが必要だ。従来から行政の持っている広報メディアでの発信力強化と、パブリシティ活動（プレスリリースなど行政情報の提供）の強化を進める。

また、民間等との連携を前提とした新たなメディアの活用戦略を策定し、情報発信を進める。

① 戸田市の広報メディアの効果的な活用

市が発行、作成する広報媒体をさらに充実させるとともに、シティセールスの視点を効果的に取り入れていく。

② 新たなメディア、媒体の活用

今まで活用してこなかったメディアや媒体を積極的に活用する。また、新たなメディアの活用やパブリシティ活動の強化について、市の方向性を明らかにするための指針を策定する。

③ イベントの機会を活用した情報発信

市内で開催される様々なイベントの機会を活用し情報発信を進める。それぞれのイベントの企画や、HP、パンフレットなどに、シティセールスの要素を取り入れていく。

④ ターゲットエリアでのPR活動の展開

ターゲットエリアを中心とし、様々な媒体を使ったシティセールス活動を展開する。

(2) 戦略2. 発見！戸田市の魅力

市民が戸田市の魅力を再発見し、戸田市への「誇り」や、「愛着心」が醸成されるよう、市民や企業、関連団体と連携しながら、既存の資源や魅力を更に磨きあげる取り組みを進める。

また、戸田市の持つ様々な強みを活かした新たな資源・魅力の創出を図る。

① シティセールス推進管理体制の確立

シティセールスの推進にあたっては、進捗を管理しながら、シティセールスをとりにくく状況変化に対応し、的確な対応をとることが重要だ。そこで、行政、関連団体、企業、市民、学識経験者などで構成される連絡会議を設置し、推進管理体制を確立する。

② 多彩な人材を活用した情報発信の推進

シティセールスを市内外からサポートする、市民特派員、シティセールス大使、ふるさと市民などの制度導入について検討する。

③ 戸田市を知るための学習・体験機会等の提供

市民や戸田市に関心を持つ人に、戸田市のことをよく知ってもらい、住むことの誇りや愛着を持っていただくことは、シティセールスを進める上で重要だ。そこで、市民等が参加しやすい学習や体験の機会を設ける。

④ 強みや特性を活かした資源の磨き上げ

戸田市の資源ともいえる、先進的、あるいは特徴があり、高い評価を得ている取り組みや施設などを、さらに充実させることで資源そのものの磨き上げを図る。また、これらについて積極的にPRする。

⑤ 戸田市の新たな魅力の開発

戸田市の魅力を更に高めるため、新たな取り組みを開始する。これらは、戸田市の新たな資源の創造や発掘につながる。

◎考察

今回視察の中で、最後にまとめとしてご教示いただいたシティセールスを成功さ

せるための4要件

- ① 明確なターゲティングが必要
- ② 明確なターゲットが絞れたら、次に人を呼び込む新たな仕掛けが必要
- ③ 人と人のつながりから生まれる、共感や感動が必要
- ④ 都市イメージの浸透が必要

という4点を意識しながら、今後の大牟田市のシティセールスに存分に活かしていく。

◎終了後 戸田市様のご配慮により、戸田競艇企業団の取り組み並びに戸田市児童センターこどもの国の運営についても、説明していただき視察した。



③東京都 練馬区

【人口】725,608人【面積】48.08km²【一般会計】約2,515億円

【視察項目】高齢者等ごみ出し支援事業「あしすと」について

★視察事項★ について

◎事業の目的

高齢や障害等により、ごみを溜め込んでしまう世帯の片付けからごみ出しまでを支援することにより、対象世帯の生活環境の改善を図り、地域で安心して生活できる住環境を提供することを目的とする。

◎事業の概要

高齢者や障害者ケアの担当者が日頃の見守りの中で、ごみを溜め込んでいて、ごみ出しの支援が必要な世帯を発見し、清掃事務所に連絡する。連絡を受けた清掃事務所職員が世帯を訪問し、高齢者等の意向を伺いながら、ごみの分別、ごみの片付け、部屋の中からのごみや粗大ごみの運び出しを支援し、ごみの収集を行う。清掃担当職員が、居宅内に直接入ってごみの片付けや運び出し等を行うことで、短時間で住環境の改善を図る。

平成 25 年 9 月からの試行状況は、すでに 30 件あまり実施した。支援を受けた区民からは「自分では手に負えなくなってしまって・・・、ここまでしていただいて感謝しています。」との言葉があった。

◎特色

環境部、福祉部、健康部の連携により、高齢者や障害者の見守りを行うなかで、生活上・身体上でのケアの必要性を早期に発見し、必要なサービスをより迅速かつ正確に提供する。生活上のケアの一環として、また、良好な住環境を確保する観点から、清掃事務所職員による居宅内でごみの分別、片付けと部屋の中からの運び出し収集を行う。申請は、本人または親族により行い、生活保護受給者については無料で行う。

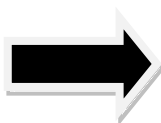
なお、作業中は、福祉部、健康部職員が対象者のケアを行う。

◎課題

対象者本人がごみと認識していないため作業ができない場合がある。また、生活困窮者等に対する処分手数料については、さらなる検討が必要である。



事業実施前



事業実施後

◎考察

今後は空き家などの増加に伴い、より深刻な課題となることが予測されるので、今回の視察で得たことを持ち帰り、大牟田市の施策に活かしていきたい。

